

八ヶ岳山行記録

記 鳥切昇治



山 域:八ヶ岳 赤岳(2899.2m)

地蔵尾根上部から赤岳と赤岳天望荘

期 日:2013年8月8日(木)~8月9日(金)

メンバー:鳥切 昇治(73才)・須美子

8月8日(木) 天候:晴・ガス 自宅~(中央道)~美濃戸~行者小屋~赤岳天望荘

平日なので通勤ラッシュにかからない様自宅を出る。心配した厚木を通過し順調に相模湖ICから中央道に入る。中央道は何時もより車が多い。八ヶ岳PAで休憩の際、美濃戸山荘の電話番号でカーナビをセットする。ところがこれが大間違いで諏訪南ICを出てからとんでも無い場所に案内されて時間をロスしてしまった。

美濃戸の駐車場は満車に近かった。支度をして行者小屋へ向け出発する。南沢に沿ってシラビソの樹林帯の中を登って行く。日差しが遮られて涼しい。新しく堰堤が出来て右岸を高捲くが急なジグザグ道でユックリ登らないと息が弾む。沢から離れて



行者小屋

右岸の急坂を登り切るとなだらかな潤れた沢を歩くようになる。ここは暑い。樹林帯に入り登る。左にヘリポートを見て登って行くと行者小屋が見えて来た。横岳、赤岳が正面に見え、右に阿弥陀岳がどっしりと見える。

行者小屋には数十年振りに来た。なかなか良い眺めである。小屋の前の広場はテーブルとベンチがあり登山者が三々五々座って休んでいる。外に水飲み場があり、トマトや飲み物が冷やしてある横で水を飲む。冷たくて美味しかった。

昼食を食べた後、小屋の左手から地藏尾根に取付く。急なシラビソの樹林帯を登る。連れが「体の力が抜け、足が前に出ない」と言う。しばらく様子を見て、ザックを持ってやりユックリ歩き始める。次第に回復して来たようで休まずに登り続ける。森林限界を過ぎ岩稜の登りとなる。チシマギキョウ？が所々に咲いている。写真を撮っている内に連れは先に行ってしまった。地藏の頭に出た。赤岳天望荘は目の前だ。赤岳はガスで見えない。



行者小屋から赤岳



地藏尾根(手前左)と横岳



赤岳天望荘から阿弥陀岳

予約しておいた赤岳天望荘の宿泊手続きをする。ここはコーヒー、お茶、お湯が自由に飲める。コーヒーを頂き一息入れる。赤岳に登る積りでいたがガスで視界が余り良くないので明日、登ることにして部屋に入る。個室だが狭い。プライバシーが守られるので女性には良い。ここは天水を使っているが、風呂に入れた。木製の大きな樽風呂(五右衛門風呂と書いてあった)で男女別の時間帯で入れる。指定時間に行ったらイモ洗い状態だった。それでも汗を流し、シャワーを浴びてさっぱりした。外でコーヒーを飲みながら、写真を撮り、ガスの切れ間の景色を見たりしてのんびり過ごす。一段下の砂礫地にコマクサが咲いている。下界の暑さが嘘のように涼しい。

赤岳天望荘の夕食は選べるほどの数は無いがバイキングだった。山小屋では珍しい。デザートも付いておいしく頂いた。宿泊者もこの時期にしては左程多くない。小学生の団体が賑やかだったが部屋に入り早々に寝てしまった。



赤岳天望荘から赤岳

コースタイム

《往路》自宅 5:34～相模湖IC7:13～(八ヶ岳PA)～諏訪南IC8:48～9:49 美濃戸駐車場
(走行キロ数 205km)

美濃戸 10:07～12:25 行者小屋 12:50～(地蔵尾根)～地蔵の頭～14:04 赤岳天望荘(泊)

8月9日(金) 天候:晴・ガス 赤岳往復 天望荘～横岳～硫黄岳～赤岳鉱泉～美濃戸～自宅

朝、カーテンを開けて外を見ると、ガスで視界が悪い。御来光を拝もうと外で待っている人がいる。赤岳天望荘の朝食もバイキング形式。朝食後のコーヒーを外で飲み、今日の日をスタートさせる。

ザックを部屋に置いて赤岳に登る。ガスが時折切れて青空が覗く。山頂で写真を撮ってから引き返す。赤

岳往復で1時間程かかった。横岳へ向う。ガスの流れが早く稜線が見え隠れする。



赤岳山頂



横岳へ向う



横岳山頂

赤岳天望荘に泊っていた子供達は、地蔵尾根を賑やかに下って行った。縦走路の登山者は左程多くなく、岩場の梯子、鎖場で渋滞することも無い。横岳山頂を過ぎ、台座の頭付近にかかると砂礫地に点々とコマク



台座の頭付近に点々と咲くコマクサ



砂礫地に咲く白とピンクのコマクサ

サが咲いている。種を播いて育てたようだ。花の盛りは過ぎて見事だ。白のコマクサも咲いている。登山道の両側をフェンスで囲い大事に育てている。



硫黄岳山荘が見えて来た(後方は硫黄岳)



ヨツバシオガマ



チシマキキョウ

硫黄岳山荘からケルンに沿って硫黄岳に登る。

山頂の右手は断崖で噴火の際の爆裂火口だそうだ。
ロボット雨量計跡の小屋が近くに残っている。



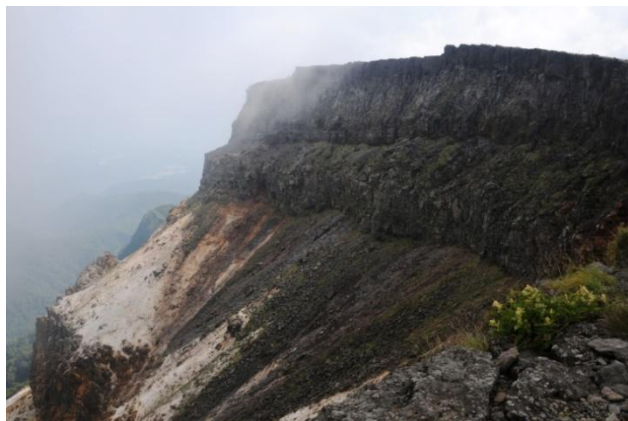
赤岩の頭から硫黄岳を振り返る

この下りは歩き易かった。入山者が次々に登って来る。

稜線のガスが上がって来たようで樹間から赤岳、横岳
が望める。

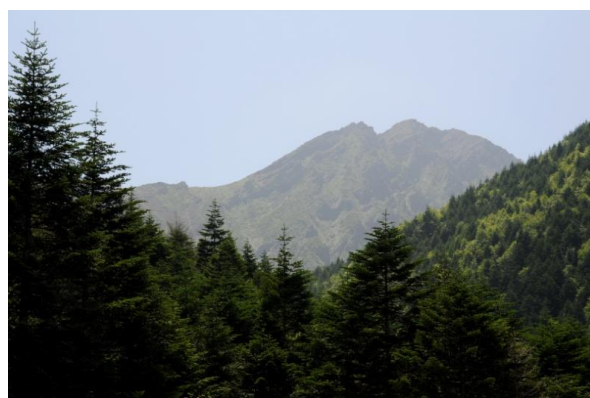
赤岳鉱泉は登山者が少なく静かだった。横岳の大同
心、小同心を見上げる。右に赤岳も見える。

外に水場があり冷たい水を飲む。渴いた喉に滲み渡る。
軽く食事をしてから北沢を美濃戸へ下る。途中から林道
に出て歩くが、下りとは言え嫌になる。

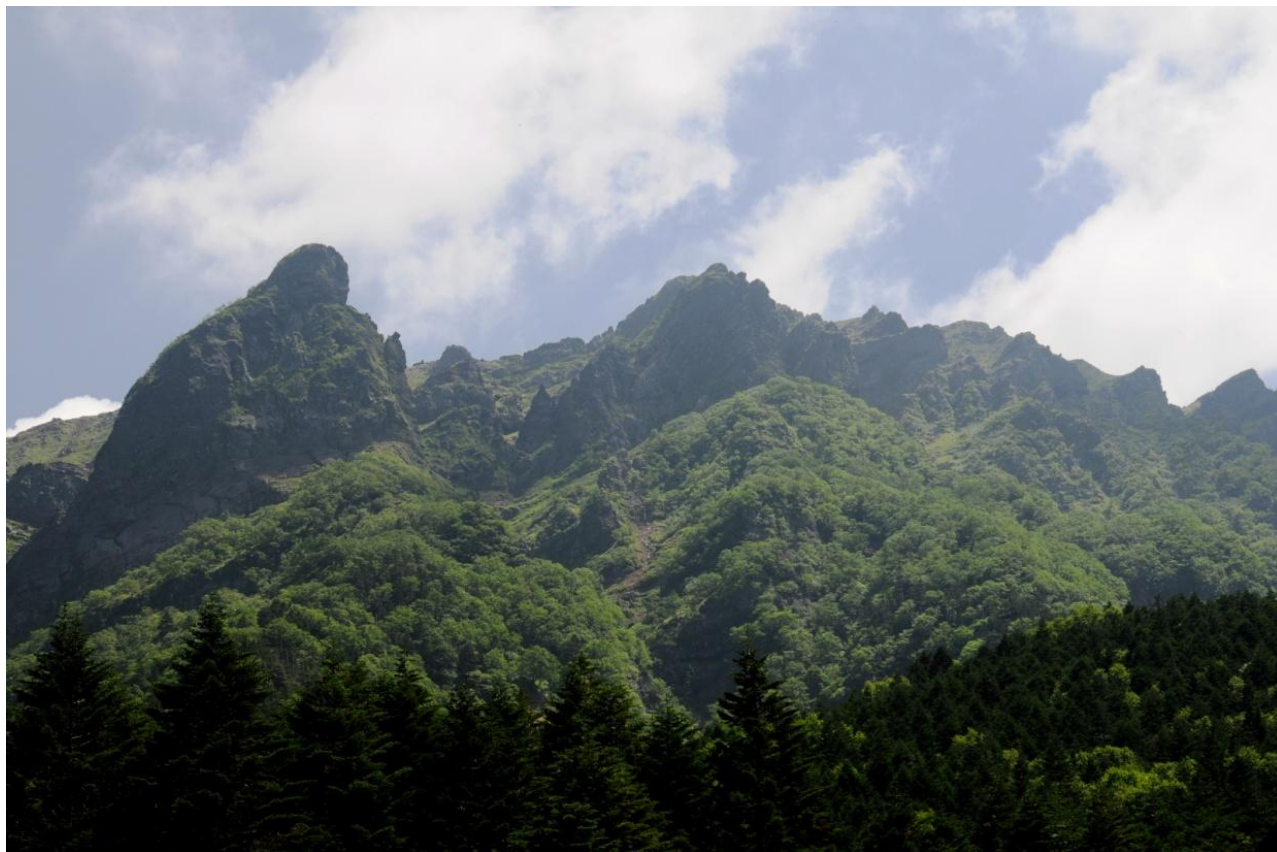


硫黄岳の爆裂火口

赤岩の頭手前でオーレン小屋への道を分ける。赤
岩の頭から樹林帯の中を赤岳鉱泉に下る。



針葉樹林越しに赤岳



赤岳鉱泉から横岳の大同心(左)、小同心を見上げる



赤岳鉱泉から横岳

美濃戸によりやく着いた。お疲れさま。

帰路は間違えずに諏訪南ICから中央道に入る。PA、SAは共に混雑していた。相模湖ICを出て、渋滞する前に自宅に帰り着いた。

コースタイム

赤岳天望荘 5:59～6:29 赤岳 6:38～7:00 赤岳天望荘 7:12～8:00 三叉峰 8:10～8:20 横岳～8:54 硫黄岳山荘 9:05～9:25 硫黄岳～9:44 赤岩の頭 9:46～10:42 赤岳鉱泉 11:12～12:29 美濃戸
《帰路》美濃戸 12:29～13:22 諏訪南IC～13:35 八ヶ岳PA13:42～14:32 談合坂SA14:39～相模湖IC
14:49～17:14 自宅（全走行キロ数 396.5km）

以上